

〔12番 野村勝憲 登壇〕

○12番（野村勝憲）

それでは、通告に従い質問します。

今回、私は市民からの意見や要望を中心に、経済性、安全性、生活環境の面から、大きく3点質問します。

まず1点目、雪と地底空間を生かしたデータセンターの提案について。現在、データセンターの立地は、需要地に近い東京、大阪の2大都市圏に9割集中、これからのビジネスや暮らしを支える人工知能、生成AIの普及に伴って需要が一段と高まっているデータセンターの増設は、災害や電力需給逼迫のリスクを減らす観点から、地方への分散がさらに強く求められてきました。

これを背景に、最近政府は、データセンターの集積に適した候補地を全国の自治体から公募すると発表。選ばれれば、国のGX経済移行債を使った整備補助金のほか、土地利用などの許認可に関する規制の緩和を受けられるなど、財政力が弱い地方自治体にもチャンス到来です。

ある人の情報で、GX実行会議で方針を固め募集に入ったことを知り、早速、紹介された経済産業省の担当者に電話で確認したところ、データセンターの集積地については地盤が安定し、脱炭素電源を含め、十分な電力供給が受けられ、通信インフラが整っていることなどが選定の条件で、データセンター立地提案の締切りは10月27日です。飛騨市もこのラストチャンスに、夏でも涼しい気候を生かし、電力消費を大幅に削減できる環境を戦略にして、古川町の数河高原と神岡町の地底空間をデータセンター立地候補地として提案し、応募すべきと考え、次の2点を問います。

1つ目、数河高原に「クール・データセンター」、これは仮称ですけれども、の立地について。現在、雪を利用した雪冷熱でサーバーを冷やす技術も開発され、東海エリアには冷却装置の一種「チルドタワー」を生産する会社が発足するなど、需要に応え、データセンター向けのサーバーに力を入れている大手企業があります。その企業などと連携して、数河高原の雪と涼しさを武器に「クール・データセンター」構想を掲げて誘致活動をしたらどうでしょうか。

2つ目、これは前にも話をしたと思いますけれども、神岡に「エコ・データセンター」、これも仮称です、の立地について。3年前に私がデータセンター誘致活動の取組で視察し、有力と思っていた新潟県、三重県、岐阜県の3自治体、これはそれぞれ市ですけれども、電話取材をしたところ、現在、立地まで至らなかったということです。なぜかと言いますと、共通することは、3自治体とも地上の平地で十分な水や電力の確保などが問題となった。それに比べ、神岡町の地底空間は年間を通じ、気温は14度から15度と低く、大量の水源が確保できて温暖化対策にもつながります。また、堅固な岩盤で耐震性も高く、地震・災害・テロなどの非常時に対応ができ、さらに電力は北陸・中部・関西電力からの供給が可能で、平地よりもはるかに優位。その地底空間にある宇宙物理学実験施設スーパーカミオカンデ跡地に、産・官・学連携による国家プロジェクト事業として、地底危機管理「エコ・データセンター」の誘致活動を推進したらいかがでしょうか。そこで政府のGX実行会議に対し、日本のど真中にクール&エコのデータセンターを、の強い思いを込め、ここにしかない地域資源と環境を武器に稼ぐ地域活性化事業として提案すべきですが、いかがですか。以上です。

## ◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔副市長 藤井弘史 登壇〕

## □副市長（藤井弘史）

データセンター誘致の御提案をいただきましたので、総括的には私から、個別の点につきましては、後ほど商工観光部長より御答弁を申し上げます。

まず、データセンター誘致に関する御質問につきましては、令和4年第2回定例会、そして直近では、令和6年第2回定例会でも取り上げていただいております。過去の答弁と重複する部分があることをあらかじめ御理解いただきたいと思います。令和4年の年明けには、神岡鉱業の地下空間を活用したデータセンターの整備について、運営事業者から具体的な検討の意向が示されました。実際に、その事業者の会長や社長など企業のトップの方々が現地を訪れ、神岡鉱業とも密接に連携しながら、前向きな条件の調整を進められました。しかしながら、幾つかの選定要件を満たすことが難しく、結果として計画は断念されました。今回、国のGX（グリーン・トランスフォーメーション）ですが、産業立地施策の一環として、「GX戦略地域」へのデータセンター集積型の募集が8月26日から始まっております。ただし、本市においては、最大の課題である通信環境の脆弱性が依然として解消されておらず、インフラ整備の面から、立地は依然として難しい状況にあります。このため、現時点での応募予定はございません。

〔副市長 藤井弘史 着席〕

## ◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔商工観光部長 畑上あづさ 登壇〕

## □商工観光部長（畑上あづさ）

私からは、1点目、2点目の具体の立地につきまして、まとめてお答えをさせていただきます。

今回、国の施策として、化石燃料中心の経済社会構造をクリーンエネルギー中心に移行させ、経済社会システム全体を変革する、いわゆるGXの実行に向け、官邸にGX実行会議が設置され、そこでの検討を経て「GX戦略地域」に関する提案募集が自治体や事業者に対して行われております。さらに「GX戦略地域」制度は、①コンビナート等再生型、②データセンター集積型、③脱炭素電源活用型の3つに整理されておまして、今回御提案いただいたデータセンター集積型については12の選定要件が示され、4つの大分類と7つの小分類に分けられております。その中でも「インフラ整備に関する観点」の「必要となるインフラ整備との整合性」が特に重要とされておりまして、電力・通信・ユーティリティ及び地理的特性の3項目が挙げられておりますけれども、本市においては通信環境と土地、さらには地下空間の活用面で大きな課題がございます。

まず、通信については、大容量通信を可能とする光ファイバー網が必須とされております。しかし、飛騨市周辺では未整備であり、例えば今後、日本海側に海底光ケーブルが敷設され、富山市内にアクセスポイントが整備され、それに接続できる状況が実現すれば高速大容量通信も可能になりますけれども、現時点で具体的な計画はなく、現実的には困難です。

次に、土地などユーティリティ・地理的特性につきましては、半径10キロ圏内で30ヘクタール以上の産業用地を確保することが必要とされております。これは、東京ドーム約6.4個分に相当い

たしまして、土地確保が難しい本市にとっては極めて困難です。もちろん、数河地域においても同様です。さらに、神岡の地下空間を活用する場合について申し上げます。先ほど副市長から答弁がありましたように、令和4年に、実際に情報系企業の方々が現場を訪れ、神岡鉱業と連携しながら詳細な検討を進められた結果、断念された際の課題は現在も変わっておりません。

具体的には、坑内は狭く高さも不十分で、サーバーラックや停電時に備えた蓄電設備・非常用電源といった附帯設備を設置するスペースがありません。このため、既存坑道を利用することは難しく、新たに坑道を掘削する必要があり、コストが大幅に膨らみます。

また、坑内の湿度は一般的なサーバーや電気設備の許容範囲である80～85%を超えることが多く、結露リスクが高いため、防湿や結露防止のための追加対策が不可欠で、通常よりもコストがかさみます。加えて監視体制につきましても、異常時には速やかな有人対応が求められますが、本市は交通アクセスが十分でなく、坑道内での対応体制を確保することは現実に難しい状況です。専任の技術者を多数配置すれば対応可能ではありますが、その場合は採算性の確保が極めて難しくなります。

このように、飛騨市は地盤が安定し、災害リスクが低く、気候も比較的涼しいという利点はあるものの、通信環境や土地条件、さらに地下空間活用に伴う課題など、データセンター立地に必要な根本的要件を欠いており、誘致は容易に実現できるものではないと認識しております。

〔商工観光部長 畑上あづさ 着席〕

○12番（野村勝憲）

8月30日に東海環状自動車道で、たしか本巣と大野神戸ですね。これが開通しましたよね。これが開通したことによって西濃地区に非常に近くなったし、関西にも近くなったんですね。それで、たしか13年間で、あの周辺に工場団地ができて、3倍のスペースになったと思います。その中に、データセンターと関係する半導体メーカーが、すごいスケールの大きいものができたのは御存じですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

その件に関しましては、承知しておりません。

○12番（野村勝憲）

NHKでも報道されています。話題にもなっています。大変な事業なんですよ。こういった環境が出てきたんですよ。それも、県内の企業ですよ、これも。岐阜県内の企業がやり出したわけですよ。そういう環境にあると同時に、これを機に、私は、今後AIサーバーをはじめAIデータセンター関連企業があこのエリアに進出してくると思うんですよ。ですから、先ほど言いましたように、飛騨から西濃まで2時間以内で行けるようになったとなると、当然データセンターはやはりど真ん中に、岐阜県に、雪を活用してということが、必ず声が出てきます。

ですから私は、もし飛騨市が駄目でしたら、私なりに今まで経済産業省から国会議員、石破先生の事務所を含めて、いろいろデータセンターについては、防災庁と一緒にセットで動いてきますんで、私なりのことを、例えば高山市に話をするとかですね。それはなぜかと言うと、この雪を利活用した、北海道がいい例なんですよ。北海道は雪を活用して、データセンターを誘致し

ているわけですね。次から次とね。今、地方で力を入れてやっているのは、半導体メーカーが台湾から進出している熊本県、あるいは福岡県、こういったところが随分と、特に福岡は相当投資して、データセンターを誘致すると。ということは、北と南の九州ということなんですね。そうなってくると、私は飛騨市を含めて、このど真ん中、雪を活用した、そういったデータセンターが求められる時代が来ると思いますが、その辺はいかがですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□副市長（藤井弘史）

繰り返しになりますけれども、先ほども申し上げましたように、このデータセンターの設置には、高速大容量通信設備が必要となっております。ここが一番のネックでございまして、これが整備されていない以上は、誘致することというのは無理かと思っております。

○12番（野村勝憲）

私はもう一つ懸念するのは、やはり今、この飛騨市は大型事業はないです。建設業界はこれから多分、厳しい局面を迎えると思えますよ。そういった中で、やはり地域活性化と言ったら、地元の業者が仕事ができる場が必要になってくるわけですよ。

じゃあ、高山市はどうかといいますと、高山は御存じのように、こういう高山清見の道路、これ10キロメートルくらいですけども、こういったものを、工事やってますね。これは国土交通省ですけども。高山はある程度、そういう土木関係の仕事、建設関係の仕事があるわけですが、残念ながら飛騨市は民間も含めて、だんだんだんだん縮小していく。

しかし、なかなか民間のそういう大型のものができてこない。こういうところで、やはり地元の事業者のことも考えたことを、事業展開をやっていかなくやいかんと思うんですが、その辺についてはどのようなお考えでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□副市長（藤井弘史）

議員おっしゃること、ごもっともだと思っておりますが、先ほどの繰り返しとなりますが、これは国家プロジェクトでもある光ファイバーというものが日本海側に敷設されれば、また話は変わってくるんですけども、そこはとても、この一自治体でどうこうできる問題ではございませんので、そのまた状況を見ていきたいなということを思っております。

○12番（野村勝憲）

やはりこういうものは大体想定した答弁なんで。先ほど30ヘクタールという話が出ましたよね、実は国のほうに、これは飛騨市では面積が集積地としては大変困難ですよという話をして、例えば他の自治体と連携ではどうなんでしょう。それはそれで検討されると。別に30ヘクタールに限ったことじゃないということまでおっしゃっているわけですよ。私は窓口は何回か電話してるんですね。そういう条件もいろいろ提案していけば、なるほどここしかないなど。

それともう一つ。文部科学省が大学の文系学部で、データサイエンスやA Iの必修化を促進すると発表してますね。御存じですね。今後、ビジネスなどA Iを活用できる人材の育成が強化されるなど、A Iデータセンター関連事業はこれからどんどん拡大していくんですよ。それだけに、

データセンター立地のビッグチャンスだと思いますが、こういったことが世の中で起きてきているわけですよ。文部科学省も、もうそういう分野に力を入れていると。そういうことを先取りした形のもの、考えていらっしゃらないですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

話がちっともかみ合わないんですけど、データセンターの容量の話なので、通信のインフラの話なので、そこが解決されないと先へ進まないということなんですね。令和4年のときに、大分突っ込んでいろんな議論をさせてもらったんですけども、必ずしも地底空間を使わずにできないかということとかもいろいろ含めて、また大規模じゃなくても、データセンターはあり得るものですから、話したんですが、やはりとにかくは通信回線です。ここについて、どうお考えになるかということが前提になりますから、そこを踏まえていただいた議論だということだと思います。

○12番（野村勝憲）

通信の関係、日本海の、これは計画が、近い将来じゃないかもしれないですけど、でもこれは具現化する可能性が出てくると思いますので、私はその辺のこともまた情報を取って、議会終わったらいろんなセクションへ、また経済産業省も行ってお邪魔してこようと思ってるんですわ。私なりに1週間前ですか、名古屋の経済界のフォーラムに行って、やはりデータセンターのことが、そこでも出ました。

ですから、経済界も、今、御存じだと思いますけども、データセンター関連は株が相当上がってますわ。そういうことで、非常に、私は先を見通して、いろいろ難易度は高いけども、そういうチャレンジをして、やはり飛騨市の底上げをしていかなきゃいかんなど、そういうふうに思っています。

それでは2点目、これは市民から非常に多くいただいている声です。「古川駅東に一体何ができるんだ」の声に対して。7月15日の市民と語る会、これは飛騨市シニアクラブ連合会だったと思うんですけども、市民から、駅東の建物が撤去されてきたが、食品スーパーはできないのか、利用する人の利便性と安全性が高い若宮駐車場から、交通量が多く危険度の高い農面道路を渡っての「安心・安全」を軽視した新駐車場に移ったのに、市や事業者から近隣の職場や施設含め、地域住民には全く説明や挨拶もないの声ばかり。この声は私だけじゃなくて、ほかの議員にも届いているはずですよ。なぜその声を行政に届けないのか、私は疑問です。

私は市民から聞かれたら、度々一般質問で執行部に問うています。これは、そのたびに、それは民間のことですからと逃げの答弁ばかり。安全性と利便性の高い若宮駐車場を、一事業者の経済性を優先して提供したのに、市民の声に答えられないでは、市民軽視と言わざるを得ません。

議会としては今後、駅東開発の事業が本当に市の地域振興及び地域貢献に役立つ施設となるか、チェックしていかなければならない。そこで3点問います。

①1つ目、飛騨古川駅東に開業する個々の施設名と事業内容について。令和4年1月に、飛騨古川駅東に「地域とつながる共創拠点」をコンセプトに、商業施設、学生寮と研究支援施設、全天候型子供の遊び場、温浴施設などが令和6年3月完成と発表。しかし、核となる商業施設になる食品スーパーなど出店依頼したが断られ、完成予定日が過ぎた令和6年5月には、宮城町で計

画していたC o I U大学のキャンパスを飛騨古川駅東の複合施設に入居すると発表してますね。

そして驚くことに、最近の新聞報道によれば、キャンパス建設は一旦保留し、金森町の料理旅館をキャンパス1号、壺之町の民家をキャンパス2号、駅前のホテルをキャンパス3号館など、空き家を利用した町なかキャンパスと発表。この大学設置計画だけでも、最初は高山から、それから宮城町へ、そして駅東から町なかの空き家、あるいは空き店舗と、四転五転と紆余曲折し、行政も市民も民間の一事業者に振り回されているのが実情です。

東洋の工場など解体作業もほぼ終了して、旧若宮駐車場と一体となった広場にどんな施設が、どんな事業内容でできるのか。議会では1月、飛騨古川駅東開発の田端社長から、2月にC o I Uの井上代表理事から、駅東開発の事業計画を聞いたときは、C o I Uのキャンパスが大きく占めていました。それはタブレットの中に、皆さんの資料として入っていると思います。

今後どうなるかを含めて、施設名と事業内容を公表してください。

2つ目、事業計画の温浴施設について。この8月28日に、高山市の宿泊もでき観光客にも人気だった「臥龍の郷」が負債2億円で破産と新聞報道。報道によれば、コロナ禍後2024年10月期1億8,000万円を計上し黒字だったが、光熱費の高止まりや、あるいは人手不足に伴う人件費の増加などで、厳しい経営状態だったとのこと。

私はさきの議会でも各務原市の恵みの湯を事例に挙げ、市場規模、マーケットの大小と、市内民間2つと市営5つの温浴施設に影響が出るんじゃないかということ質問したとき、畑上部長は、駅東開発に予定の温浴施設は市内の人が利用してもよいですが、主として市外の人をターゲットにした施設と具体的に答弁されています。このことは当然、進出予定の事業者と打合せ済みだと理解しています。

高山市の観光客は飛騨市の約5倍で、宿泊客は圧倒的に多い。その中で、集客力のある「臥龍の郷」は、創業して14年で廃業です。こういうことも参考に事業展開を進めなければなりません。

部長答弁の市外からの利用客は年間どのくらいの見通しで、また、年間売上げはどのくらいの事業計画か、示してください。

3つ目、駅東開発の「共創拠点」による経済波及効果について。急激な人口減少により、飛騨市は過疎地域が多く、古川の町なかは夕方4時過ぎには人影もなく、げた足で買物にも行けない、古川はこれからどうなってしまうのと。今でも駅東には、食品を中心に買物ができる店が欲しい、また食品スーパーができないなら土地交換する必要なかったの声です。どこの地域でも商業施設など、いわゆるディベロッパーですね、事業を計画したときは、その地域にプラス影響を与える経済波及効果の予測数値を出すのが常識です。これは東濃でもちゃんと出してますわ。こういう、要するに開発事業をやった場合はね。

今回、市は安全性と利便性が高く、駅にも近い一等地である若宮駐車場を、一民間事業者の経済性を優先して土地交換。したがって、駅東開発の「共創拠点」は、飛騨市の地域経済にどのようにプラス影響を及ぼすのか。そのことは、当然交換条件の1つだったと思いますよ。それを、数値を入れて、具体的に市民に示してください。

以上です。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔商工観光部長 畑上あづさ 登壇〕

□商工観光部長（畑上あづさ）

それでは、私からは、1点目から3点目までの御質問について、まとめてお答えいたします。

現在把握しております飛騨古川駅東に開業予定の施設名や事業内容につきましては、今年3月議会において、野村議員からの御質問にお答えした内容から変わりはありません。大学キャンパス、温浴施設、全天候型の子供の遊び場、テナント賃貸借事業、宿泊施設の設置といった点以上の詳細については、伺っておりません。

また、温浴施設の事業計画や、駅東開発の「共創拠点」による経済波及効果につきましても、前回6月議会で野村議員にお答えしたとおりです。いずれも純粋に民間企業が主体となって進められる事業であるため、市として詳細を承知しているものではなく、お答えする立場にもございません。経済波及効果についても、市が想像や仮定の話をするべきではないと考えております。

市からは開発者に対し、近隣の区長さんをはじめ地域の皆様に定期的に進捗状況を説明するよう依頼しており、今後もその対応を見ながら、3月に締結いたしました土地建物交換契約書の第1条に基づき、必要な情報は適切にお伝えしてまいります。

〔商工観光部長 畑上あづさ 着席〕

○12番（野村勝憲）

たしか市と事業者との間で定期的に意見交換されてますね。どういうメンバーでされてるんですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

市側のメンバーは、事務局の立場を担っております商工観光部商工課をはじめ基盤整備部、それから環境水道部、教育委員会など、関係すると思われる部署の担当者によって構成をされております。

○12番（野村勝憲）

そうしますと、最近はいつやられて、具体的なテーマはどのようなことで、意見交換されてるんですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

直近では8月に開催しておりまして、協議の内容といたしましては、事業のスケジュールの確認ですとか、現在の株式会社東洋の建物の取壊しに関する工事の進捗ですとか、水道関係のいろんな、上水道、下水道の関係のことに関して事業者側から報告を受け、それに対して、課題がないかなどの検討を行っております。

○12番（野村勝憲）

3月で答弁したとおりでということですが、そうしますと、C o I Uは、たしか来年の4月開学ですね。そうすると、それまでに間に合うんですか。要するに、駅東開発の共創拠点のあ

の中で。建設は間に合うんですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

駅東の施設については、2027年の開業を目指して、今建設を進めておられますので、C o I Uの開学時には、まだ建設は当然完了しておりません。

○12番（野村勝憲）

そうしますと、確認ですけども、C o I U、要するにキャンパスと学生寮はあそこに間違いなくできるんですね。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

現時点ではできると伺っております。

○12番（野村勝憲）

はい、安心しました。間違いなくできるという言葉をいただいたので、それを信じてですね。

それじゃ、全天候の遊び場については、大学が間違いなくできるということは、全天候の遊び場も間違いなくできるんだと思いますが、これについて、私は前に一般質問でもしてますけども、高山市の事例を、子供の遊び場、原山市民公園含めて、それから将来、5年後ですか、高山駅西に全天候の遊び場ができるということで、実は今週の月曜日、私、高山市の議会へ傍聴に行ってきました。

それはなぜかと言いますと、あそこで今ちょっと話題になっているのは、前にも紹介したと思いますけど、ひだ木遊館、木っずテラスですね。これは去年の11月にオープンしています。これ、大変な人気ですね。それで、それを質問された議員さんがいらっしゃるんで、私は傍聴に行ってきました。どのような状況なんだということで、非常に、話の中では順調な運営のようですわ。数字も実は発表されました。

しかし、これはこういう場ですから、数字のことは言えませんが、非常に私が感じたのは、人気館になりつつあるなど。それはなぜかという、原山市民公園と、やっぱり相乗効果が出てるんですね。近い、屋外で。それとやっぱり古川を含めて、飛騨市からの親子の人たちも行っているわけですね。

もう非常に、そういう状況の中で、2027年には全天候の子供の遊び場ができるということになると、当然その打合せの中でそういう話も出てると思いますわ。そうでしょう。事業計画するには、そういう話が、当然同じ市場の中で、競争相手が入ってくるわけですから、その辺についてはどのような意見交換をされてるんですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

先ほども答弁の中で申し上げましたが、細かい事業内容につきましては、あくまで民間で実施しておられる事業ですので、そこに対して市がどうのこうのという立場にはございません。です

ので、8月にも開催しております定例会の中では、そういったことに関して議題となっております。

○12番（野村勝憲）

くどういようですけども、東洋さんの土地でやるなら、別に民間民間でいいんですよ。若宮駐車場を提供したんですよ、飛騨市は。それも非常なリスクを背負って。その辺についてはどのようにお考えですか。じゃあ、畑上部長。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

これまでの駐車場の交換に関連する議案の提出ですとか、それから野村議員からの一般質問の際にも、都度都度申し上げておりますけれども、駐車場の交換については、交換しなくても駅東の開発は事業者側でされる予定だったところを、安全面等も考慮したところで、若宮駐車場との交換の話が出てきまして、そこで駐車場の交換が、安全面でもメリットがあるということと、それから市にとっては新しい駐車場ができるということで、メリットが多いということで判断をして、議会の議決をいただいて交換したものでございますので、そういった御心配には及ばないと考えております。

○12番（野村勝憲）

問いの答えになってないですね。

そしたら、ちょっとお聞きしますけども、ディベロッパー事業をされているわけですけども、この中にディベロッパー、要するに開発事業に携わった人っていらっしゃるんですか。実績はあるんですか。そういう人はいらっしゃるんですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

皆様御存じのとおり、そういった事業は、ここ近年、飛騨市は発生しておりませんので、当然関わった職員もおりません。

○12番（野村勝憲）

恐らく、東濃ではそれぞれ、企業力のあるところがディベロッパー開発、実績があるところは次から次とやってるわけですね。そういう意味では、比較はできませんけども、なかなか私はちょっとそういう点で危惧してるわけですよ。だから事業が何やるのか、ころころころころ変わる。これでは結果市民に迷惑がかかるんでね。

じゃあ、最後の質問にいけます。新駐車場周辺の生活環境と安全対策について。私は駐車場が完成した後、上気多地区の住宅や店舗などを一軒一軒訪問し、以前と比べた周辺住民の暮らしと生活環境の変化などをヒアリングしました。過去には2件の交通死亡事故、また最近では、7月16日朝の通勤時間帯に車2台の衝突事故が発生するなど、交通事故多発地域だけに安全対策が急がれます。

そこで、次の4点を問います。

①周辺住民の安眠と暮らしやすい対策について。駐車場周辺の住宅中心に、私は10軒以上の家

庭を訪問してきました。そして、9月3日、4日は、この質問原稿を持って2回目の訪問。どの家庭も市及び事業者から、新駐車場と駅東開発について一度も説明を受けていないことが判明しました。逆に、苦情や要請を受けることになりました。

以前は田畑で空き地などもあって、夏は網戸で寝られたと。しかし、一面がアスファルトのヒートアイランドになり、その放射熱と駐車場の明かりで、雨戸とカーテンを閉めての生活となり、電気代もかさむなど、安眠と暮らしにマイナスの影響。したがって、駐車場と住宅の間に大きな樹木を植えて、一部公園化するなどして、緑地対策が急がれると思います。

②駐車場周辺に貯水池の設置について。最近、ゲリラ豪雨による災害が各地で発生し、6月、高山市では記録的な大雨で、一時3,166人に避難指示が発令されました。土砂崩れや河川の氾濫が心配されましたけれども、それがなかったのは安心しました。

飛騨市にゲリラ豪雨が来たとき、約1万2,000平米の広大なアスファルト駐車場から、川幅の狭い山崎排水路に一気に流れ込み、河川の氾濫が心配です。その安全対策として貯水池が必要ではないですか。

③山崎排水路の一部を歩道にする改修工事について。ひだ薬局上気多店から下った上気多橋の信号までは、農面道路を使用しないといけません。5、6年前、自転車での死亡事故、これはたしか薬局から出られた方だと聞いておりますけれども、非常に危険地帯です。地域の人からも強い要望もあり、この際、山崎排水路の上に歩道橋を設置して、安心して歩ける道にしたらどうですか。

④これまでの市発注の安全対策の工事と今後の見通しについて。残念ながら、市民からの新駐車場の評価はあまりよくないですわ。危ない、遠くなったなどの声が、利用者から耳にする。市は独自の安全対策を取っていますが、その具体的な工事内容と費用を示してください。絶対交通事故が起きない、駐車場と農面道路一帯の安全対策は今後どのようなことを考えているのですか。以上です。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔総務部次長 上畑浩司 登壇〕

□総務部次長（上畑浩司）

私からは、1点目、周辺住民の安眠と暮らしやすい対策について、お答えをいたします。

飛騨古川駅東駐車場の供用開始後に、駐車場内の照明の消灯時間を早めるなど、周辺への影響を緩和する調整を行ったところであります。

その他の要因につきましては、現状をよく確認いたしまして、状況に応じて必要な対策を検討してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

〔総務部次長 上畑浩司 着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔基盤整備部長 横山裕和 登壇〕

□基盤整備部長（横山裕和）

それでは、私からは、2点目から4点目の問いについて、お答えいたします。

まず、2点目の駐車場周辺に貯水池の設置についてにお答えいたします。今回整備された駅東駐車場は、開発許可を必要としない整備であるため、調整池は設置されておりません。しかし、当該駐車場を整備する前は一部が農地であったことから、農地部分が駐車場へと用途が変わったことにより、降雨時の排水量は増加いたします。この増加する水量に対応するため、駐車場内には地下浸透ますを設置し、地下に浸透させる構造としております。これにより、山崎排水路への負荷が軽減されているところでございます。

続いて、3点目の山崎排水路の一部を歩道にする改修工事について、お答えいたします。

上気多側からの道路横断については、岐阜県公安委員会との協議により、近接した複数箇所での横断は危険性が増すことから、市道若宮7号線との交差点部に新たに設置した横断歩道を通行していただくこととなっております。議員御提案の山崎排水路の上に歩道橋を設置してはどうかという点につきましては、これまでの一般質問でも答弁しておりますとおり、山崎排水路を全面暗渠化することは、水路の維持管理や冬期の排雪などに支障を来すおそれがありますし、多額の工事費を要するものと考えられます。また、山崎排水路側に歩道を整備する場合は、排水路より民地側に設置することも考えられますが、この場合は用地買収が必要で、土地所有者の協力が必要となります。そのため、まずは上気多杉崎線の安全対策については、駐車場内を通り、新たに設置した横断歩道へ歩行者をしっかりと誘導することが最優先と考えております。

続いて、4点目のこれまでの市発注の安全対策の工事と今後の見通しについて、お答えいたします。市が計画している工事につきましては、駅東駐車場整備に伴う安全対策を最優先に考え、市道上気多杉崎線に接続する市道3路線の拡幅、市道上気多杉崎線の歩道整備、そして車道の舗装工事を予定しております。なお、全てが駐車場整備に伴うものではなく、歩道整備については地域から長年の要望があり、もともと計画されていたものでもあります。これらの工事に要する費用は、現在施工中のものも含めて、総額で約1億7,000万円となります。有利な補助事業や起債を活用し、市の財政負担軽減に努めております。

主な内容としましては、市道の幅員が狭いことから、駐車場への出入りの際に交差点で車の滞留が予想されるため、渋滞を緩和する目的で2車線化を進めております。現在は交差点部分の拡幅工事を行うとともに、横断歩道を利用する歩行者の安全を確保するため、待機スペースの設置を進めております。さらに、横断歩道を渡った後も安全に通行できるよう、歩道整備や道路照明・看板等による安全対策も順次実施してまいります。

今後も、施設の利用状況や交通の流れを踏まえ、警察や駐車場を管理する部署とも連携しながら、引き続き安全対策に取り組んでまいります。

〔基盤整備部長 横山裕和 着席〕

○12番（野村勝憲）

私は1軒1軒回ってきましたからね。ちょっと基本的なことをお聞きしますけれども、私、6月議会で、この件もやっぱり質問しておりますけれども、そのとき畑上部長は、市としては周辺住民の方々には説明してませんが、事業者は直接1軒1軒回られて説明されていますというのを答弁されています。それでは具体的に、どなたが、いつ訪問され、説明されたんでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

具体の日時、訪問者までは承知しておりません。

○12番（野村勝憲）

それじゃ、ちょっと根拠を説明してください。私はどの家庭も、事業者は1軒も来てませんということを聞いてるんですよ。じゃあ、これは虚偽答弁ということになりますよ。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

事業者からは、関係するところは回られたと聞いております。

○12番（野村勝憲）

これ大変な問題なんでね。いつ、どなたですか、事業者は。田端社長ですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

工事の施工をしております井上工務店の担当者の方からは、そうお聞きしております。

○12番（野村勝憲）

とてもじゃないが、それでは答弁になってませんね、うそですよ、これは。そんなことは事実なかったんで。私は全部回りました。2回回ったところもあります。一度聞いてみてくださいよ。

基盤整備部なんかはね、ちゃんと私が話したら、課長が早速対応してくれましたわ。それは基盤整備部長は御存じだと思いますわ。すぐ対応してくれた。その話まで、私この前お邪魔したら、ある家から、ありがとう、ありがたかったですわという声まで聞いてるんですよ。私は真実を述べてるんですよ。こういう場ではうそは言えませんか、作ったことは。

そしたら、旧若宮駐車場と比較して、新駐車場を利用する人たちの、一番問題は安全性と利便性なんですけど、その面からメリットってどんなことがあるんですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

新しくなりましたところで、舗装面がきれいになりましたので、以前のような路面の亀裂だとか、大きな水たまりはできておりませんし、区画も広く、駐車台数も増えましたので、そういったところでメリットがあると考えております。

○12番（野村勝憲）

私、今回1軒1軒訪問して、やっぱり共通点は、先ほども述べたように、新駐車場周辺の生活環境が悪くなったということです。これはどなたからも聞きます。さっきも説明してますよね。よくなったなというところは1つもないですわ。

じゃあ、なぜ市は、この土地交換をする前に、生活に、要するに環境に与えるマイナスのことも含めて、シミュレーションとか調査をしなかったんですか。そういうことはやってますか。

## ◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

## □商工観光部長（畑上あづさ）

今おっしゃったようなシミュレーションはしておりませんが、舗装面につきましても、もともと全部が田畑であったわけではなく、一部は既に工場用地として田畑ではない部分でしたし、現在も隣接地にはまだ田畑も多く残っております。その時点では、重大な影響を周りの住民の方に及ぼすことはあまり想定しておらず、調査は行っておりません。

## ○12番（野村勝憲）

これから安全対策をどうするかということなんですけれども、やっぱり一番危惧されるのは子供なんです。ずっとそれぞれ家庭を回って気がついたことは、4歳の女の子がいる家庭があるんですね。それも一番駐車場に近い家ですわ。今までは交通はほとんどなかったから大丈夫なんですけど、もう駐車場、すぐそばですわ。そこへ突然飛び込むという可能性も出てくるわけですね、子供は。そういうところも踏まえて、やっぱり駐車場を管理していかなきゃいかん。

そのためには、私はやはり今の文字だけの、要するに横断歩道を渡ってくださりだけじゃ駄目なんですわ。例えば、これ、ある自治体で電柱につけてたんですけど、子供の飛び出し注意して欲しいということで、こういうものも作ってるわけですね、こういうものをね。こういうことをやっぱり市としてやっていかないと、これ、「とびちゅうくん」というネーミングまでつけて、登下校する学校の、要するに電柱につけてるわけです。それスマホで撮ってきて、ちょっと拡大したんですけど。こういうことは安全対策に必要なだと思いますが、その辺いかがですか。

## ◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

## □総務部次長（上畑浩司）

議員御指摘のとおり、安全対策は何より大事であると思いますので、駐車場からそういった飛び出しとかがないような啓発するものについては、検討して速やかに対応してまいりたいと考えております。

## ○12番（野村勝憲）

ぜひ、お願いしたいと思います。安全対策上、横山部長の話では1億7,000万円必要になってきたということなんで、都竹市長は、舗装代6,000万円、これは誰が出してくれるんですかということでしたけれども、1億7,000万円は誰が出してもらえるんでしょうかね。

## △市長（都竹淳也）

先ほど話があったように、これはもともと歩道整備の計画があって、地元からの要望があって、道路整備の一環としてやってるんで、今のお話は、何か駐車場の話と結びつけて、何かこう話をゆがめて誘導されているような御発言です。これは気をつけていただきたい。

これは道路の整備というのは元来、こういうお金をかけて、年数を経ながらやってるものから、先ほどの駐車場の舗装の6,000万円とか、そういう話とは全く次元が違うので、そういうイメージを誘導するような発言はやめていただきたいと思います。

## ○12番（野村勝憲）

どちらにしても都合のいい答弁で、市民に寄り添ったことを私は言ってるわけですよ。環境が

悪くなったんでね。よくなったという人、聞いたことないですわ。そうでしょう。誰か聞きました。都竹市長、よくなったという話を。

△市長（都竹淳也）

私も何人が聞いてますけど、駐車場よくなったねとよく聞きます。広いし、使いやすいし、よくなったねと聞きます。そういう声は聞いていらっしやらないですか。聞かないようにされている、それとも。

これ、やっぱりいろんな声を聞かれるべきだと思います。やっぱり駐車場ってそういう捉え方をしている人も多いんですよ。議会を見ておられて、何で反対するんやろうねと、何でああいうことを言うのかねという人までいますよ。それも市民です。

ですから、いろんな声が市民にある。歓迎されている声もある。もちろん先ほど言った課題もあります。こうしたことに、やっぱり一つ一つ対応していかなくちゃいけない。次長が言ったように、やっぱり丁寧に対応していかなくちゃいけないと、それは思います。これでいいとは思わない。しかし、1つの声が全ての声だとは思わないということだと思います。

○12番（野村勝憲）

どちらにしても、周辺地域住民のことも考えたことをやっぱりやらないと、市民は大変な目に遭ってるわけですから、その辺をお願いして。

それと、議長にお願いしたいんですけど、先ほど畑上部長のことを話したと思います。ぜひ議事録を見て、それと、ぜひ議長としても精査していただいて、本当に事業者が説明しているのか、その辺のことを議長に、進行の問題もありますのでお願いして、私の質問を終わります。

〔12番 野村勝憲 着席〕